

# 工藤 安代

(NPO法人 ART&SOCIETY研究センター代表理事)

## 選考理由

NPO 法人 ART&SOCIETY 研究センター代表理事である工藤安代氏は、「アートクロッシング・ヒロシマ 2001 展」の企画運営（広島市）、成田国際空港アート計画の企画管理、九州大学パブリックアート・マスター・プランニング等、多数の公共・民間アートプロジェクトに関わる実務実績を有する。2003 年、社会に関わるアート活動に関心が強い研究者らと共に任意団体「アート&ソサイエティ」を設立。以後、社会とパブリックアートの関係についての調査研究活動や、都市・地域でのアート活動を取り上げる専門誌『Public Art Magazine』の定期的発行を行ってきた。また、多様なゲストを招聘して今日のアート実践を思考する連続レクチャーや、海外ゲストを招聘したシンポジウム・講演会などを企画開催するなど環境芸術に関わる啓蒙にも大きく寄与してきた。2008 年には、勁草書房より、アメリカ文化政策の歴史的推移をふまえ、世界のパブリックアート政策を牽引してきたアメリカの 70 年にわたる実践を公益性・公共性・芸術性から検証した基礎的研究である「パブリックアート政策—芸術の公共性とアメリカ文化政策の変遷（文化政策のフロンティア）」を刊行。2010 年より、東京文化発信プロジェクト室東京アートポイント計画との共催事業として、「地域・社会と関わるアート」に関するアーカイブを設立するプロジェクトを進めている。

以上の工藤安代氏の実績は、環境芸術の発展と前進に大きく寄与するものであり、環境芸術学会はこの功績に対し、学会賞を授与することとした。

## 研究活動の概要／略歴

東京に生まれる。多摩美術大学卒業後、パブリックアートのディレクションの実践

を経て、南カリフォルニア大学芸術建築 1. 学部パブリックアート研究修士課程修了。埼玉大学大学院文化科学研究科博士後期課程修了。

## 現在の所属

特定非営利活動法人 アート & ソサイエティ研究センター 代表理事 日本女子大学、実践女子大学非常勤講師

## CINII に登録された業績

1. ソーシャリー・エンゲイジド・アートの現在：社会的文脈に関わる近年のアート活動の動向：工藤 安代 実践女子大学美術美術史学 (29), 39-47, 2015-03
2. 公開空地@AFTERNOON→Night 工藤 安代 環境芸術：環境芸術学会論文集 (10), 76, 2011-10-15
3. 研究発表/口頭発表レポート(自然との距離感-環境芸術のアプローチ-,環境芸術学会第11回大会) 工藤 安代 環境芸術：環境芸術学会論文集 (10), 16, 2011-10-15
4. シンポジウム「環境芸術は社会を変える力となりえるか」(環境芸術は社会を変える力となりえるか,環境芸術学会第10回大会報告) 大森 正夫 [パネリスト], 高須賀 昌志 [パネリスト], 工藤 安代 [パネリスト他], 谷口 文保 環境芸術：環境芸術学会論文集 (9), 20-31, 2010-03-31
5. 第2分科会 環境芸術と社会(環境芸術は社会を変える力となりえるか,環境芸術学会第10回大会報告) 工藤 安代 環境芸術：環境芸術学会論文集 (9), 18-19, 2010-03-31
6. 欧州3大現代アート国際展と地方都市の文化創造 工藤 安代 文化経済学6 (1), 207-210, 2008-03
7. ニューディールの芸術文化政策 -財務省 絵画・彫刻部(セクション)の芸術プログラムの特性- 工藤 安代 文化経済学5 (1), 27-37, 2006
8. いずみ霊園アートワーク：アートプロジェクトにおける作家およびアートプロデューサー、コーディネーターと地場産業の協働 趙 慶姫, 工藤 安代 環境芸術：環境芸術学会論文集 (3), 9-12, 2003-10-22
9. "街の中の劇場"づくり:ヘブスアーティスト

事業 工藤 安代 文化経済学 3 (4), 103-105, 2003

10. 現代パブリックアートにおけるメモリアル論の論争点：マヤ・リンによるベトナム・ベテランズ・メモリアルとレイチェル・ホワイトリードによるホロコस्त・メモリアルの比較検証 工藤 安代 環境芸術：環境芸術学会論文集 (1), 5-12, 2001-12-25



## 代表的な著作

パブリックアート政策—芸術の公共性とアメリカ文化政策の変遷（文化政策のフロンティア）工藤 安代（著） 勁草書房（2008/6/25）  
アメリカ文化政策の歴史的推移をふまえ、世界のパブリックアート政策を牽引してきたアメリカの 70 年にわたる実践を公益性・公共性・芸術性から検証した基礎的研究。制作する芸術家、観衆であり税負担者でもある市民、政策実施者としての行政。この三者による各々の要求の相互作用とそこから帰結される政策評価・立案の循環に焦点を当てながら、アメリカのパブリックアート政策が単なる芸術支援にとどまらない総合的文化政策として世界的に注目され重要性が高まってきた経緯を歴史的に明らかにする。



## 翻訳本

ソーシャリー・エンゲイジド・アート入門 —アートが社会と深く関わるための 10 のポイントパブロ・エルゲラ=著アート&ソサイエティ研究センター（秋葉美知子、工藤安代、清水裕子）訳 フィルムアート社（2015/3/23）  
社会に深く関わる=エンゲイジするアートによる社会創造のムーブメント「ソーシャリー・エンゲイジド・アート」という世界的なアートの潮流を、理論と事例を通じて伝える。美術史、教育理論、社会学、言語学、エスノグラフィーなど、さまざまな分野の知見を活用しながらプロジェクトを組み立て、「参加」「対話」「行為」に重点を置きつつコミュニティと深く関わり、社会変革を目指すソーシャリー・エンゲイジド・アートを紹介する手引き書である。

## 主催する団体

特定非営利活動法人アート&ソサイエティ研究センター（東京都千代田区外神田 6 丁目 11-14 3331 Arts Chiyoda 311E） <http://www.art-society.com/>